

流行りの「見える化」でビジネスはどう変わるのか(第2回)

労務管理の課題は、勤務実態の「見える化」で解決できる

2022.02.14



従業員の業務内容を把握するには、どのような仕事をどれくらいの時間をかけて行っているのかを「見える化」する必要があります。今回はAIで見える化するツールを紹介します。

中小企業でも時間外労働に制限。労務管理は厳格化している

働き方改革関連法が施行されたことで、企業の労務管理はより厳格化が求められています。特に2020年4月からは、時間外労働の上限規制が中小企業にも適用されるようになりました。つまり、すべての企業は規模を問わず、労働時間に関する適切な管理体制を用意する必要があるというわけです。

長時間労働は、従業員の心身に悪影響を及ぼします。企業側にとっても、従業員の離職率増加や、イメージダウンにつながりかねないため、より効率的な働き方を構築していくことも求められています。

長時間労働が起きてしまう原因には、いくつか理由があります。単純に人手が足りないこともあります。人材がそろっているにもかかわらず、マネジメント側が従業員の個々の業務量や進捗状況を把握せず、うまく人材を配置できていないケースもあります。最近では、テレワークで勤務する機会も多くなっているため、各スタッフの業務は特に見えづらくなっています。

こうした課題を解決するには、従業員がどのような仕事を、どれくらいの時間をかけて行っているのかを「見える化」する必要がありますといえるでしょう。

AIがPCのログを自動で分析し、勤怠の実態を「見える化」する… 続きを読む